

唯一無二の存在に

大東消防署東分署 消防隊
消防士長 中矢 裕太(平成23年入職)

【辛さを糧に】

私が消防士を目指したのは、高校 1 年生の時です。大好きだった祖父が膵臓癌で亡くなったことがキッカケでした。つい最近まで一緒に暮らし、いつも傍にいてくれたのに、もう会うことも話すこともできない。当時、これ程の悲しい出来事に直面したことが初めてで、「こんな思いは2度としたくない、周りの人にも同じ思いをして欲しくない」という強い思いから、自分の個性と身体を活かし、人を喜ばせる、人の命を助ける消防士になりたいと思うようになりました。



【共に支え合う】

「思っていたのと違う。」良くも悪くもそれが消防士になって最初に感じたことです。意外と事務作業が多かったり、24時間勤務の中での雑務など、決して日の目を浴びることのない地味な作業。いつ何時発生するかわからない現場活動のために日々訓練を繰り返し、しっかりと準備する時間の大切さを知り、消防士という職業は、実は縁の下の力持ちの存在であることに気づきました。市民の方々や周りの大切な人を助ける、支える仕事、その誰かを助けるために日々訓練する。現場活動に備え、訓練の中で仲間を助け合い、励まし合い、支え合う。そしてその現場の職員を支えるため、毎日勤務の職員がいる。いわば、お味噌汁の豆腐です。普段何気なく食べている食材ですが、なくてはならない存在。消防士は、努力次第で市民の方々にとってなくてはならない存在になることができるのです。

【不断の努力】

僕は、専門学校卒業後1年間フリーターをしていました。勉強がとても苦手で当時の四條畷市消防本部を3回受験し、やっとの思いで合格することができました。受験も現場活動と同様とても準備が大切で地道な勉強の繰り返しです。勉強ばかりで楽しくない時があるかもしれませんが。そんな時は、思い切ってリフレッシュすることも必要です。何より掲げている目標や信念を揺るがすことなく努力し続けることが将来人を喜ばせられる人間、人の命を助けられる人間になれると私は思います。

どうかあなたの個性を活かしてください。

どうかあなたの身体を活かしてください。

どうか人を喜ばせてください。

どうか人の命を助けてください。

そのためにどうか消防士になってください。

あなたのいるべき場所。大東四條畷消防組合はあなたにとっても、市民にとってもなくてはならない存在です。



CIAFS

